

単元構想シート

① 本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

友達と遊ぶ良さって何だろう？

② 単元を貫く問い（単元を通して考えを深めていく「問い」）

どんなシャボン玉が作れるだろう？

③ 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

- ・ どんなシャボン玉を作ろうかな？
- ・ どんな材料が必要かな？
- ・ どうすれば自分が作りたいシャボン玉が作れるかな？

単元計画の構想

「スペシャルシャボン玉を作ろう!!」

- ① シャボン玉で遊び、シャボン玉の特徴を捉える。
- ② スペシャルシャボン玉のイメージ図や実現するための道具について考える。
- ③ 友達と関わりながら、スペシャルシャボン玉を実現させるために道具を改善する。
- ④ 遊んで気付いたシャボン玉の面白さ、不思議さ、遊びの面白さを交流する。

第1学年 生活科学学習指導案

熊野町立熊野第三小学校

指導者 河久 千景

1 日	時	令和4年11月1日(火) 第3校時
2 学年・学級		第1学年1組(男子11名 女子10名) 計21名
3 単元名		なかよしを ふかめよう 〜いっしょに あそぼう〜
4 単元について		

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。ここでは、シャボン玉遊びを繰り返すことを通して、シャボン玉の特徴や面白さ、不思議さに体全体を使って気付くとともに、オリジナルのシャボン玉を作りたいという思いの実現に向け試行錯誤を繰り返し、友達と関わりながら、遊びを創り出そうとすることをねらいとしている。「小学校学習指導要領解説生活編」に示された具体的な視点としては、「オ 生産と消費」「ケ 遊びの工夫」を取り入れている。

友達と一緒に遊びに使う道具をつくったり、友達や異学年の児童とシャボン玉と一緒に遊んだりする活動を通して、自分の思いを実現させるために道具の材料やつくり方やシャボン玉遊びの遊び方及び遊ぶ場所を考えさせたり、身近な人と関わることの楽しさに気付かせたりすることができる。さらに、シャボン玉遊びの中で、友達と協力すると遊びが楽しくなることやオリジナルのシャボン玉をつくることのできるようになった自分や友達の成長やがんばりにも気付かせていける題材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、遊ぶことが大好きで、幼稚園や保育園でシャボン玉遊びを経験してきている。園の先生が大きなシャボン玉をつくるのを見て楽しんだり、市販のシャボン玉の道具を使って吹いて遊んだり、シャボン玉遊びに親しんでいる。また、園所では、昔遊びのけん玉やこま、砂遊びなども経験している。身近な自然に触れる機会も多く、これまでに「あさがお」や「さつまいも」を育てる中で、その生長も楽しんできた。

1学期には、「なかよしをひろげよう」の学習で、友達と学校探検の活動を通して、学校の施設を知り、友達や学校を支える人々との交流を経験してきた。交流する際には、身近にある物(古紙、空き箱など)でプレゼントづくりを楽しむ経験もしてきている。しかし、1学期に行った砂遊びでは、スコップで山や川、トンネルなどを作る姿は見られたが、ザルやカップなどの道具を使って工夫しながら遊んだり、自分たちでいろいろな遊び方を考えたりするまでには至っておらず、身近にある物を使って、自分で遊びを考え出したり、遊びに使う物を工夫してつくったりする経験は乏しい。

(3) 指導観

単元を通して、児童が思いや願いの実現に向けて試行錯誤を繰り返しながら、体験活動と表現活動を相互に繰り返していく過程を大切に、指導に当たっては次の3点の工夫を行う。

① 試行錯誤を繰り返すことのできる環境を整える。

単元を構想する段階では、児童が園所でどのような道具を使ってシャボン玉遊びを楽しんでいたのか、どんな遊び方をしていたのか、また、その時の様子などを園所の先生方に聴き取りを行い、園所での体験や経験を把握したり、シャボン玉に関する絵本などを教室に準備し、自由に見ることができるようにしたりしておく。

また、小単元1では、園所で使用していた道具の他に、カップやハンガーなどの身近にある物も用意し、児童が好きな道具や物を選んで遊ぶことができるようにし、小単元2・3では、児童が道具づくりで使うことのできる材料を十分に用意しておく。

② 自然な形で関わり合いや情報交換の場が生まれる環境づくり。

小単元2・3では、つくった道具を試したり改善したりする時間と場所を十分に確保し、活動の中で上手くいった児童の道具を紹介したり、同じようなシャボン玉をつくりたいと考えている児童を近くに移動させたりする。そうすることで、友達とつくった道具を比べたり、助け合ったりするなどの関わりが生まれ、気付きの質を高めていくことができる。また、友達との関わりが苦手な児童には、遊びの中で繋げていけるようにし、一緒に遊ぶことの面白さに気付けるようにしていく。

③ 様々なパターンで、表現し伝え合う場を設定する。

同じ願いや思いを抱いている友達とペアで活動したり、小グループで制作活動を行ったりすることで、伝える相手を広げていき、全体での発表へつなげていく。繰り返し他者と関わることで、自分が知らなかったことに気づいたり、伝え合った内容がきっかけで新たな活動への意欲が生まれたり、他者と交流する楽しさを味わうことができる。また、互いのよさを伝え合うことにより、自分の成長にも気付くことができるようにしていく。

5 単元の目標

身近にある物を使ってシャボン玉遊びをする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることができる。

6 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準		身近にある物を使ってシャボン玉遊びをする活動を通して、遊びや遊びに使う物をつくる面白さ、自然の不思議さに気付いている。	身近にある物を使ってシャボン玉遊びをする活動を通して、試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	身近にある物を使ってシャボン玉遊びをする活動を通して、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
小単元 の 評 価 規 準	1	①シャボン玉で遊び、その特徴や面白さに気付いている。		
	2	②つくりたいシャボン玉のイメージから材料を選び、工夫して作ることの面白さに気付いている。	①身近にある物を試したり、比べたりしながら材料を選び道具をつくっている。	
	3		②友達がつくった道具と自分がつくった道具を比べたり、いろいろな材料やつくり方を試したりしながら、道具を改良している。	①みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。
	4	③遊んだことを振り返り、工夫して遊ぶ楽しさや、友達と関わるよさに気付いている。	③これまでの体験を振り返りながら、遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを表現している。	②みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、異学年にも楽しさを広げようとしている。

7 指導と評価の計画（全 15 時間）

次	学習の内容	他教科との関連	評価 基準	評価の方法
1. シャボン玉であそぼう（3）	・シャボン玉について知っていることや、経験したことのある遊びなどを出し合う。 ・校庭でシャボン玉遊びをする。 ・加工していない身近にある物を使ったシャボン玉遊びをして、気付いたことを出し合う。	道徳科 「にじがでた」	知①	発言分析 行動観察 ワークシート
2. スペシャルシャボン玉を作ろう（4） 【本時4/15】	・シャボン玉遊びを通して出てきた「もっとこうしたい」という願いから、「スペシャルシャボン玉」の絵を描く。 ・「スペシャルシャボン玉」を実現させるために必要な道具を考え、身近にある物を利用して工夫してつくる。	図画工作科 「みてみてあのね」	知② 思①	発言分析 行動観察 発言分析 行動観察 つくった道具
3. スペシャルシャボン玉であそぼう（3）	・作った道具を使って、シャボン玉遊びをする。 ・遊んで気付いたことや、上手くいかなかったこと、もっとこうしたいということを交流し、比べたり試したりしながら、道具を改善する。	算数科 「10よりおおきいかず」	態① 思②	発言分析 行動観察 ワークシート 発言分析 行動観察 つくった道具 ワークシート
4. シャボン玉を広げよう（5）	・遊んだことを振り返り、活動をどう広げたいか話し合う。 ・異学年をシャボン玉遊びに招待して、一緒に遊ぶ。 ・シャボン玉遊びを通して、頑張ったことや考えたことを発表する。	国語科 「ききたいなともだちのはなし」	知③ 態② 思③	発言分析 行動観察 行動観察 発言分析 ワークシート

8 本時の展開（本時 4 /15）

（１） 本時の目標

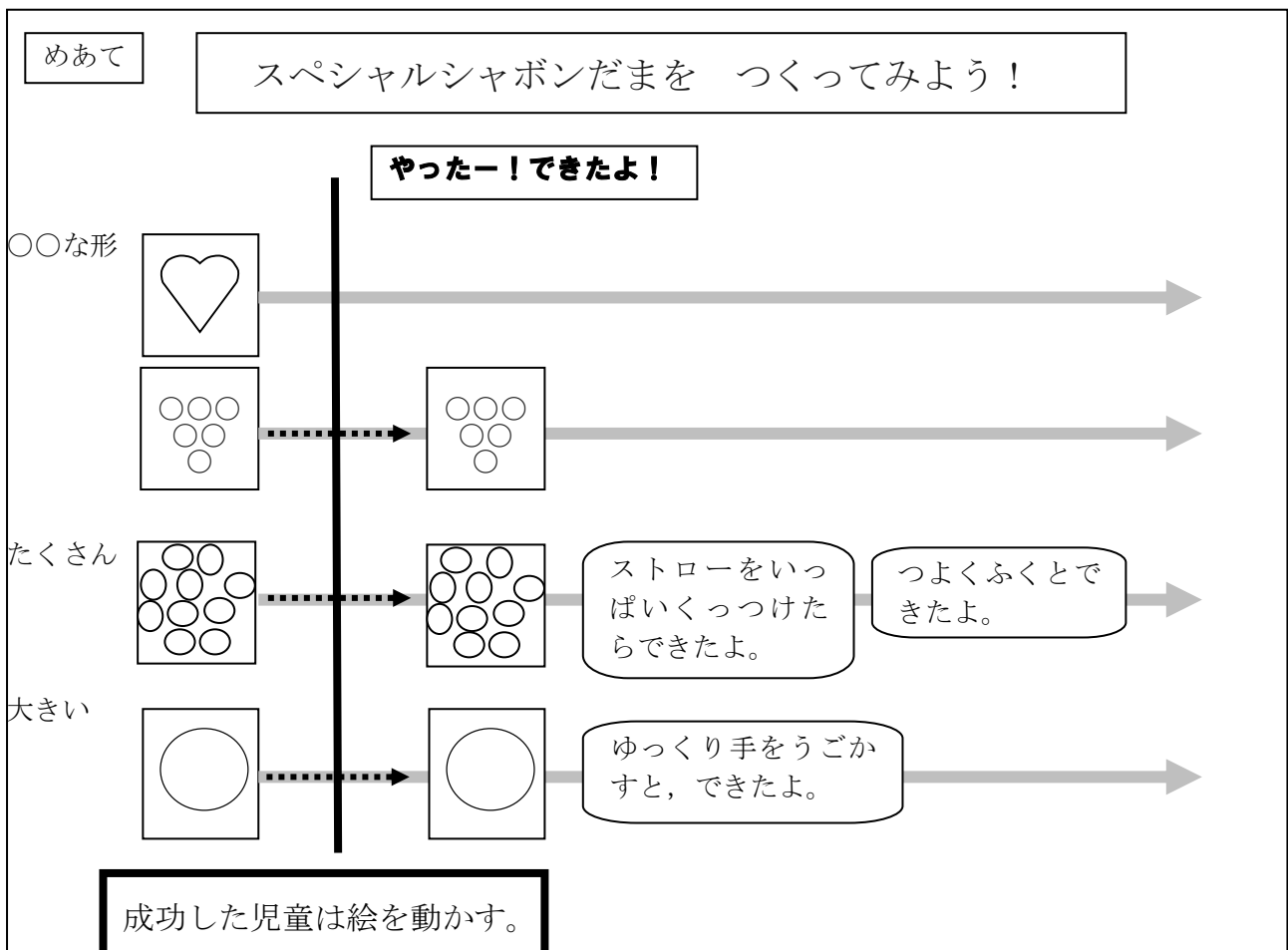
シャボン玉遊びで気付いたことや「もっとこうしたい」という思いを広げながら、身近にある物を利用して、遊びに使う道具を比べたり試したりしながら作ることができる。

（２） 本時の展開

	学習活動	主な発問（○）と 予想される児童の発言	指導上の留意点（・） 評価規準（☆）
導入	1 前回の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前の時間にみんなが描いた「スペシャルシャボン玉」を見てみましょう。 「顔くらい大きいものをつくりたい。」 「♡の形にしたいな。」 「一度に、100 個出るシャボン玉にしたい。」 「ぶどうの形のシャボン玉にしたいな。」 ○今日は、みんなが作りたい「スペシャルシャボン玉」をつくってみましょう。	・展開での活動でねらいからずれないように、自分の思いと今日のめあてを確認できるようにする。 ・素材を活かしてできたシャボン玉の特徴を掲示しておく。
		スペシャルシャボンだまをつくってみよう！	
展開	2 身近にある物を使って道具をつくったり、遊び方を工夫したりする。 3 道具を実際に試してシャボン玉をつくってみる。	○「アイデアプリント」を見たり、掲示を見たり、友達の作品やつくり方でいいなと思ったことを真似したりして道具をつくってみましょう。どんな道具がつかれるかな？ 「大きいシャボン玉にしたいから、こっちのカップにしよう。」 「●●さんみたいに、ストローの先を切ってみようかな。」 「これとこれを使ったら、うまくいくかも。」 ○つくった道具や考えた遊び方の工夫を実際に遊びエリアで試してみましょう。どんなシャボン玉ができるかな？ 「吹き口から離れると丸くなるけど、離れる前は♡形だ。」 「ゆっくり動かしてみると大きなシャボン玉ができるな。●●くんみたいにやってみよう。」 「●●さんは大きくても割れないな。やり方を真似してみよう。」	・アイデアプリント（絵）をもとに材料を準備することで、児童の発想が試せるようにしておく。 ・作ったり試したりする時間をしっかり確保する。 ・スペシャルシャボン玉ができた児童は、板書に貼っている絵を動かして、次のレベルアップシャボン玉づくりに進むように声をかける。 ・絵が動かない児童へは、材料や組み合わせ方などについてアドバイスをしたり、友達と関わるように助言したりする。 ☆身近にある物を試したり、比べたりしながら材料を選び道具をつくっている。【思①】

			(発言分析, 行動観察, つくった道具)
終末	4 試したことや発見したことを話し合う。 5 本時の学習の振り返りをする。	○今日上手くいったことや発見したことはどんなことですか？ 困ったり悩んだりしたことはどんなことですか？ 「♡の形は、はなれてしまうと丸になって♡ができなかったです。」 「ストローを合わせてくっつけて穴を増やしたのでたくさんできました。」 「息をゆっくりふくと、ブドウみたいにたくさんシャボン玉がくっつきました。」 ○次は、どんなことにチャレンジしたいですか。 「●●くんのシャボン玉が大きくてすごかったです。次やるときは真似してみたいです。」 「素早く動かしてたくさんのシャボン玉をつくってみたいです。」 「材料を変えて、作りみたいです。」	- 成功したことも失敗したことも出し合うことで次時の工夫を考えるヒントになるようにする。 - 実際につくった道具を見せたり、タブレットで撮った画像を見せたりしながら児童の言葉を補足していく。 - ワークシートに今日の活動を振り返り、次がんばりたいことを書くことを通して次時への期待がもてるようにする。

9 板書計画



10 環境

